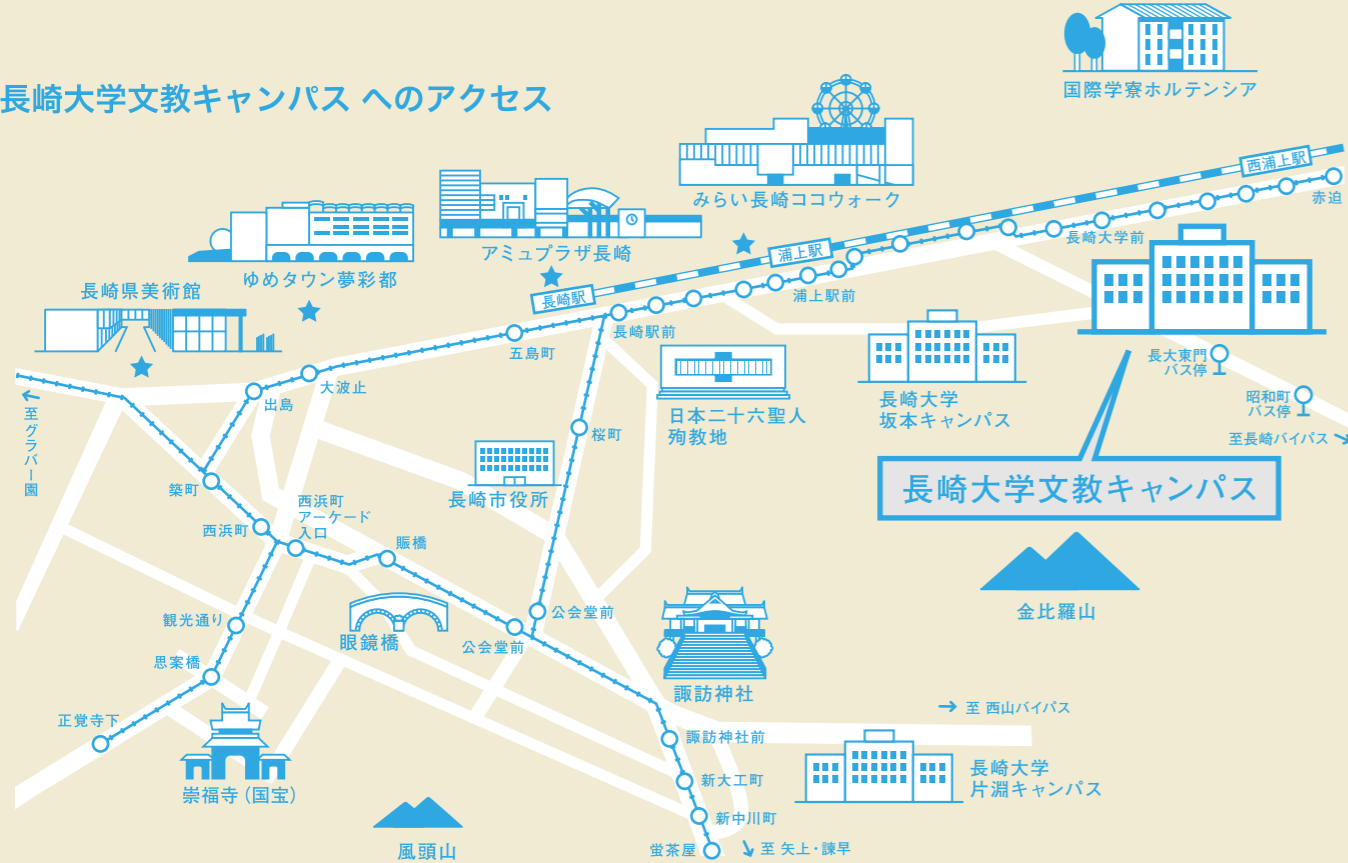


NAGASAKI UNIVERSITY

長崎大学多文化社会学部

School of Global Humanities and Social Sciences (SGHSS)

長崎大学文教キャンパスへのアクセス



JRをご利用の場合

JR長崎本線「浦上駅」下車、その後、以下の路面電車もしくはバス利用

- 浦上駅から路面電車をご利用の場合
「浦上駅前」から「赤迫（あかさこ）」行き乗車
「長崎大学前」で下車（所要時間 / 約10分）料金 120円

- 浦上駅からバスをご利用の場合
「浦上駅前」から「1番系統」のバスに乗車
「長崎大学前」下車（所要時間 / 約10分）料金 150円



高速バスをご利用の場合

浦上経由長崎方面行きバス「昭和町（しょうわまち）」で下車し、徒歩で長崎大学東門まで約15分あるいは長崎大学正門まで約20分



航空機をご利用の場合

長崎空港（大村市）から浦上経由長崎方面行き長崎県営バス「長崎空港リムジン」で「長大東門前（ちょうだいひがしもんまえ）」で下車（所要時間 / 約50分）、又は住吉経由長崎方面行き長崎県営バス「長崎空港リムジン」で「長崎大学前（ながさきだいがくまえ）」で下車（所要時間 / 約55分）し、徒歩で約3分
片道バス料金 / 900円、往復バス料金 / 1,600円



地域の視点から世界を俯瞰し、グローバルな視点から地域を考える、人間性豊かな人材を育成します。

長崎大学多文化社会学部では、語学・社会科学・人文学からなる

多彩なカリキュラム、海外留学やフィールドワークなど積極的な学びの制度により

豊かな人間性を持つ人文社会系グローバル人材を育成します。

世界や他者との紐帯そのものである「ことばの力」、主体的に世界を観察し

体験的に情報を得る「調べる力」、調べた材料をもとに理解を深める「知識・考える力」、

そして社会へ働きかけ、変化を起こす「行動力」を身につけ、

卒業後には長崎から世界へと舞台を移し、新しい時代や価値、文化を創造しましょう。

【教育理念】

多文化社会学部は、グローバル化に伴い複数の文化の共生と協働が求められる現代世界において国際的に活躍できる人文社会系グローバル人材を育成することを教育理念としています。

【教育目標】

1 高度の英語力とコミュニケーション能力を持っている

高度の英語力を有し、グローバル化する世界において、英語でコミュニケーションやプレゼンテーションができる人材の育成。

2 文化的多様性を理解できる

グローバル化する世界における多文化状況に関する知識を有し、文化的多様性の意義を理解できる人材の育成。

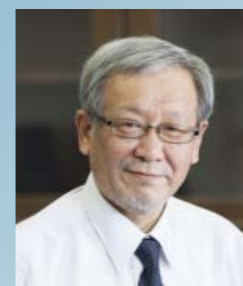
3 共生的な関係を築き問題解決に向け行動する

グローバル化する世界の中で、人々と共生的な関係を築き、問題解決に向けて、パートナーシップやリーダーシップを発揮して行動することができる人材の育成。



学長 片峰 茂

1950年生まれ。長崎大学医学部卒業、東北大学大学院医学研究科修了(医学博士)。長崎大学教授、副学長、国立大学法人長崎大学理事等を経て、2008年学長就任。



学部長 中村 則弘

1957年生まれ。筑波大学大学院社会科学研究科修了(社会学博士)。愛媛大学教授を経て学部長就任。愛媛大学名誉教授。専門は、国際社会学、社会変動論。西欧社会知と対比しつつ、脱オリエンタリズムを軸にグローバル化時代のなかでアジアの諸価値体系のもつ意味を批判的に問い直しています。

長崎からグローバルへ。 長崎大学だからできる学びがあります。

「多文化社会学部」は、3年前に誕生したばかりの人文社会系の新しい学部です。世界の多様な文化、歴史、地理や国際関係と真正面から向き合うことを通じて、多文化の増嶋(るつば)である現代社会の政治・経済、文化、社会活動分野において国際的に活躍できる人文社会系グローバル人材を育成します。しかも、破格の英語力を備えた、現場に強く、個性が際立つ長崎大学ならではのグローバル人材です。多様性の時代、通り一遍の知識を英語で語れるだけでは国際社会では通用しません。生まれ育った土地、学ん

だ街、さらには愛する国のことを通じて世界を語ることのできる人材こそが真のグローバル人材であり、国際社会において確固たる存在感を発揮できます。「多文化社会学部」では、長崎に根ざした特色ある教育を通して、地域の視点から世界を俯瞰し、グローバルな視点から地域を考えることのできるグローカリティ(glocality)を体現する人材が育ちます。400年以上にわたる国際交流の歴史を持つ長崎で学び、個性際立つグローバル人材として世界へ飛翔する。そんな志に燃える若者たちを待っています。

世界に向けてまだ見ぬ道筋を

現代においては、グローバル化のなかで複数文化の共生と協働が求められています。長崎大学多文化社会学部は、この時代的要請に真正面から応えようとするものです。そこで、国際的に活躍できるグローバル人材の育成ということを教育理念に掲げ、海外留学やフィールドワークなどを広く取り入れ、これまでとは異なる大学での学びを実現しようと取り組んでいます。また、複数文化の共生と協働ということでは、「地球規模で考え、地域で行動する」ということが求められることならざるを得ません。そうであるならば、「地域で考え、地球規模で行動する」ということも考えておいてよいでしょう。とすれば、地域にねざした大学から世界を俯瞰し、行動する力を涵養することこそ、いまの時代が未来を担う世代に求めていることなのかも知れません。ところで近年では、アジア各地の大学はもとより、ヨーロッパの大学を訪れる機会も増えてきました。そのなかで、痛切に感じることもあります。それは、ヨーロッパの大学が、総じて個性豊かなことです。地域の歴史や文化が深くかかわっていることは、間違いありません。ひるがえって、最も個性が感じられないのは、身近な、東アジアの諸大学だと思えます。それは何より、画一化しようとする力があまりに強く反映してきたからでしょう。また、地域に根差した市民性が

活かされていなかったことも忘れてはならないでしょう。グローバルとローカルの結びつきの重要性が広く認められる時代において、東アジアの諸大学が深く自省すべきであることは確かです。歴史と文化にねざした、地域的個性を活かした学びの場をつくりあげることが必要なのであり、日本・アジアを見渡しても長崎大学は出色の位置にあると断言できます。「希望とは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなればそれが道になるのだ」と、魯迅は『故郷』のなかで語りました。付け加えれば、道はない地上に、誰かが初めてまだ見ぬ希望の足跡をつけていたのです。前途が平坦なものでないことは明らかです。長崎大学多文化社会学部も、まだ見ぬ希望の道筋を開かんものと奮闘しているのです。歴史ゆたかな長崎から、世界に向けてとびたち、新しい時代や価値、文化を創造してゆきましょう。

Contents

身につけるべき4つの能力	02
特色ある4つのコース	03
語学力強化のためのプログラム	04
世界への扉を開く留学プログラム	06
多文化社会学部の学びのシステム	08

【各コースの紹介】

グローバル社会コース	10
社会動態コース	11
共生文化コース	12
オランダ特別コース	13
教員紹介	14

独自のキャリア教育プログラム	16
TOPICS	17
年間スケジュール	18
「国際学寮ホルテンシア」のご案内	19
入試情報	20

多文化社会で活躍する グローバル人材であるために 身につけるべき4つの能力

多文化社会である現代において、国際的に活躍する人材となるために備えておくべき4つの能力。

それは「ことばの力」、「調べる力」、「知識・考える力」、「行動力」です。

多文化社会学部では、これら4つの力を総合的に養っていくことで確かな論理や知識を軸とし

さまざまな場面で臨機応変に行動し、社会貢献できる、グローバル人材の育成を目指します。

「ローカル」から「グローバル」を目指す 世界を学びのステージにする 特色ある4つのコース

国際社会の仕組みを学ぶグローバル社会コース、

人・モノの動きから世の中をとらえる社会動態コース、

異なる文化や言語をもつ他者との共生を考える共生文化コース、

そして、オランダを切り口に現代の欧州を学ぶオランダ特別コースの4つのコースで構成されています。

自分が学びたいコースに進み、目標に向かってチャレンジしてください。

Language

ことばの力



「ことばの力」とは「高度の外国語運用能力とコミュニケーション能力」です。それを実現するために多文化社会学部では英語モジュール、中国語モジュール及びオランダ語モジュールを用意し、とりわけ英語については、1年次の前期に集中的な学習時間を確保するようにしています。

[提供するカリキュラム]

- ◎英語モジュール ◎中国語モジュール
- ◎オランダ語モジュール

Research

調べる力



「調べる力」とは、フィールドにおけるリサーチスキルのことです。異文化を理解するために必要なのは、徹底した調査・分析。多文化社会学部ではデータ収集と問題整理、問題発見、調査の企画と実施を行うためのスキルを身につけられるようにします。

[提供するカリキュラム]

- ◎フィールドワークモジュール

Global Society Program

グローバル 社会コース



- 法学、政治学、経済学を中心とした、国際社会の「仕組み」を理解する
- 専門モジュールのすべての講義科目を英語で開講
- 中期・長期の海外留学（主として英語圏）が必須

Social Dynamics Program

社会 動態コース



- 社会学、文化人類学、歴史学を中心として、多文化社会の変化と動態を理解する
- 教員全員がフィールドワーカーであり、現地での実践経験を持つ
- アジア、アフリカ、ヨーロッパを対象とした知識とフィールドワークを通じた実践指導を実現

Knowledge

知識・ 考える力



「知識・考える力」は、すなわち「多文化状況と文化多様性の意義を理解できる力」のことで、多文化社会学部では1年次より学部モジュール6科目、共通基礎モジュール18科目、専門モジュール41科目を設定しています。

[提供するカリキュラム]

- ◎学部モジュール ◎共通基礎モジュール
- ◎専門モジュール

Action

行動力



「行動力」は、リーダーシップやパートナーシップ、あるいは実行力であり、教室での勉強だけでは身につけられません。多文化社会学部では全学生に短期留学を必須化するとともに、中期・長期の留学や海外でのフィールドワーク、インターンシップを推奨しています。

[提供するカリキュラム]

- ◎留学 ◎フィールドワーク ◎インターンシップ

Culture and Communication Program

共生 文化コース



- 思想、文化表象、メディア、言語等の面から多文化共生社会の基礎となる言語や文化の重要性を学ぶ
- 高等学校教諭一種免許状（英語）が取得可能

Dutch Studies Program

オランダ 特別コース



- 「実験国家」オランダを人文社会学の様々な角度から学ぶ、日本で唯一のコース
- オランダで最も古く、世界的に評価される「ライデン大学」から教授陣を招聘
- 「ライデン大学」への1年間の留学が必須

※グローバル社会コース、社会動態コース、及び共生文化コースについては、2年次終了時にコースを決定します。

高い語学力は学びの軸であるとともに 多文化社会で活躍するための大切なツール

多文化社会学部では、ビジネス、学術、国際関係など現代社会のそれぞれの分野でグローバル人材として活躍するための不可欠なツールとして、「ことばの力」を重要視しています。「ことばの力」、とりわけ英語力の徹底強化を目的に、系統的で集中した4年一貫の英語力養成プログラムを実施しています。専門知識の習得と同時に、グローバルな多文化社会で活躍するためのスキルとしての「高度の外国語能力」、「コミュニケーション能力」の獲得を目指すことが、多文化社会学部のプログラムの大きな特徴です。また、英語のほかに将来、中国又はオランダに留学を希望する学生向けに、中国語及びオランダ語モジュールを開発しています。

■ 英語教育プログラム

多文化社会学部では英語力強化に向けて段階的に目標値を設定した、4年一貫の英語力養成プログラムを実践しています。目標達成のために、Transition Programの実施、短期留学の義務化、中期・長期留学の推奨（グローバル社会コースとオランダ特別コースは必須）、専門科目の英語での開講、及び定期的なTOEFL ITP/IELTSの受験等に取り組んでいます（外部試験受験料は一部学部負担の制度あり）。

英語科目 18 科目

(1年次) 8科目 英語発音法 Reading and Writing I Reading and Discussion I 英語の仕組みと意味 I 英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ 総合英語Ⅰ、Ⅱ	(2年次) 5科目 Academic Writing I 英語の仕組みと意味Ⅱ Reading and Writing II 英語コミュニケーションⅢ 総合英語Ⅲ	(3年次) 4科目 Academic Writing II Reading and Discussion II Advanced English I、II
---	--	--

Transition Programの成果 (平成26年度入学生)

多文化社会学部では、学生の英語力の伸長度を測るため、各学年でTOEFL ITPを定期的に受験しています。平成26年度入学生では、1年次前期には484点であったものが後期には515点（それぞれ平均点）まで伸びています。

1年次前期 484点 >>> 1年次後期 515点

● 中国語モジュール及びオランダ語モジュール

中国語モジュール 世界で必要性が増している中国語。最終的には中国語でプレゼンテーションができるレベルの力を身につけます。	(科目名) 5科目 中国語総合表現Ⅰ、Ⅱ 中国語文献討論Ⅰ、Ⅱ 中国語プレゼンテーション
--	---

オランダ語モジュール オランダ特別コースの学生は必修。初級レベルの文法から長文読解や作文にも取り組み、ライデン大学への留学に備えます。	(科目名) 3科目 オランダ語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
---	-------------------------

Student's Voice



【教養ゼミナール】
仲間との交流を通して「大学での学び方」を学ぶ。

1年 森山 佳南子
福岡県立修猷館高等学校出身

教養ゼミナールでは、各10名ほどのグループに分かれ、大学で学ぶために必要な基本的な知識を学びます。グループごとに担当の先生と

コーチングフェローが付き、きめ細やかに指導していただけます。少人数であるため友人や先生方との距離がとて近く、和気あいあいと学ぶことで自然と親交が深まります。また、活発な意見交換を通して、自分の考えを表現する力や相手の意見に耳を傾ける力を鍛えられていると感じています。現在はグループごとに調査課題を決め、プレゼンテーションに向けた調査や準備に励んでいます。仲間の意見に刺激を受けながら、実践的に学び方を身につけることができる講義です。



【英語コミュニケーションⅡ】
ディスカッションを通して、知識と理解が深まります。

1年 岡村 日向子
福島県立会津高等学校出身

この授業は、自分自身について英語でプレゼンすることから始まり、世界に出た際最も必要とされる自己表現力やコミュニケーション力を鍛えています。

ネイティブの先生の生の英語に触れ、海外で実際に使われている表現とそれに関する情報や文化まで知れて毎回とても新鮮です。また、高校までの受動的な授業とは違い、先生やクラスメイトとディスカッションをする場も多くあります。自らの考えを発信するだけでなく、多様な意見や自分だけでは得られない新たな課題に触れることもでき様々な視点から物事を解釈できるようになり、この授業を通して対人関係など幅広い学びを経験できています。国内外から集まった個性的で志の高い仲間から刺激と好奇心が生まれ、クラス全体がいるんな色であふれています。この時間は、まさに多文化社会です。

4年一貫の英語力養成プログラム

3-4年次
 卒業研究：外国語による成果の発信 → 語学力と専門性の高次元での融合
 卒業時目標：TOEFL iBT 100, TOEFL PBT 600
 ・中期・長期留学
 ・海外フィールドワーク、英語科目の開講
 ・専門教育科目の英語開講（グローバル社会コースでは全科目が、他コースでも複数の科目を英語で開講）

2年次
 ・英語科目の開講（5科目）
 ・英語カフェ
 ・中期・長期留学を目指したTOEFL/IELTS対策
 ・共通基礎モジュール科目の一部英語開講
 中期・長期留学の学部内出願資格(英語力要件)
 TOEFL iBT 79
 TOEFL PBT (ITP) 550
 IELTS 6.0
 ※学部内出願資格として、英語力の他に成績要件など一定の基準を設けています。

1年次
 ・短期留学
 ・Transition Program (英語科目、大学入門科目、英語カフェ、教養ゼミナール成果発表会(英語)、夏季英語集中講座(TOEFL/IELTS対策))
 目標
 TOEFL iBT 61
 TOEFL PBT (ITP) 500
 IELTS 5.5

1年次から徹底して英語力をトレーニング

Transition Program

「知の1000時間マラソン」で英語力を強化

Transition Programとは1年次前期に英語と大学入門科目を集中的に履修するプログラムです。英語科目(7科目)、大学入門科目といった正課科目のほかに、夏季英語集中講座、英語カフェへの参加、教養ゼミナール成果発表会などが含まれています。これらの学習時間を合計するとおよそ1000時間となることから、「知の1000時間マラソン」と呼んでいます。1年次前期修了時には、TOEFL iBT61点、TOEFL PBT (ITP) 500点、IELTS5.5を目指します。なお、入学時に基準(TOEFL iBT61点、TOEFL PBT 500点、IELTS 5.5、TOEIC 730点、英検準1級以上)を達成している学生は、講義の受講に代えて、国際ボランティアやインターンシップ、フィールドワークに参加することができます。

英語カフェ

実践的に生きた英語を鍛える
コミュニケーションプログラム

Transition Programの一環として、【英語カフェ】を開催しています。英語カフェは、授業よりもくつろいだ雰囲気の中で、アクティブで実践的な英語コミュニケーション力を養う機会を提供します。日本の文化、歴史、社会について英語で語るための語彙を習ったり、プレゼンテーションやノートテイキングなど英語での授業に必要なスキルを身に付けたり、TOEFLやIELTSに必要な「英語での教養」に触れたり、映画やニュースについて意見を交わしたり、といった様々なトピックを通して、英語力に広がりや深さを加えていきます。2年次以降の学生には、培ってきた英語力をさらに磨き、向上させるための【英語カフェ advanced】も用意されています。



英語カフェの様子

教養ゼミナール成果発表会

英語を使ったプレゼンと討論で
Transition Programの成果を確認!

1班10名で構成された学生たちが、「教養ゼミナール」で実施した調査の成果を学生・教職員の前で発表します。各班のメンバーがディスカッションを通して問いを共有し、文献調査やフィールドワークを協力して行った上で、その成果を英語でプレゼンします。1年次前期のTransition Programを構成する、英語科目、「教養ゼミナール」、「フィールドワーク入門」での学びを総合し、発信していくよい機会となっており、入学時とは見違えるような自信に満ちた姿で、英語での報告と議論を行う姿を見ることが出来ます。



発表の様子

CALL システム

学内外・時間を問わずに英語を学習できる環境を整備!

コンピューターによる英語自学自習システムで、学内・学外さらに携帯からも24時間アクセス可能です。本学部では2教室で、CALLシステムを導入したパソコンを整備しています。



CALL教室での授業の様子

多文化ラウンジ

フリースペースを活用して語学力アップ!

学生が自由に使えるスペースで、自習や打ち合わせのほか、英会話の実践的練習のためにも使うことができます。ここで学生同士、あるいはコーチングフェローを交えて語学力の上達を目指します。

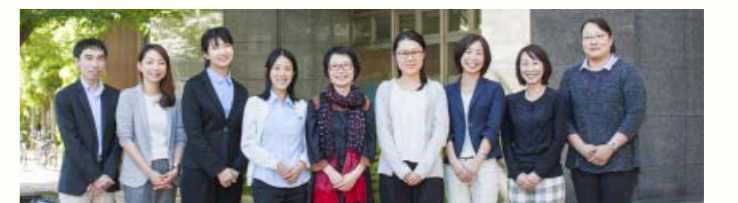
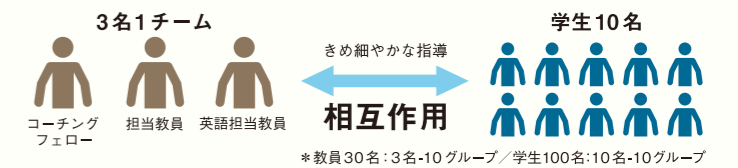


多文化ラウンジの様子

コーチングフェロー

きめ細やかな指導体制で学修をサポート

本学部では、コーチングフェロー(戦略職員)を登用し、少人数制できめ細かな指導が特色のリベラル・アーツ教育の実施をサポートしています。世界の様々な現場や大学で活躍してきたコーチングフェローたちが、英文エッセイの指導から英語試験対策、そして留学相談に至るまで、各々の学生のニーズに合った指導を行います。学生10名に対して、担任教員、英語担当教員(英語で授業を実施する教員又は外国人教員)及びコーチングフェロー(又は助教)の3名で指導チームを編成。指導チームは学生と定期的にミーティングを開催し、学生の履修状況を把握し、指導方法を適宜確認します。



世界への扉を開く さまざまな留学プログラム

異文化への理解を深めるために留学を推奨している長崎大学。そのなかでも多文化社会学部では、短期・中期・長期留学を組み込んだカリキュラムを構成し、英語をはじめとする語学力の向上を目指しています。また、その他にも海外でのフィールドワークやボランティア、インターンシップなども実施しています。

■短期留学

短期留学は、主として1年次の学生全員を対象としています。英語をはじめとする外国語能力の向上と異文化交流への関心を高めることを目的として数週間程度、海外大学との提携に基づくスプリングプログラム、サマープログラム等の海外大学との提携プログラムに参加します。短期留学は、長崎大学の教養教育科目の一部である外国語科目として単位認定されます。

注：平成26、27年度の状況について
平成26、27年度の留学先、期間、旅行代金、留学奨学金（給付型）は、次のようになっています。平成28年度以降の短期留学プログラムの内容については未定であり、過去の実績から変更される可能性があります。

留学先、時期及び期間について（平成26、27年度実績）

留学先	人数	時期	期間
アメリカ	カリフォルニア州立大学モントレーベイ校	15名	平成26年9月
	ナショナル大学	15名	平成27年9月
カナダ	カルガリー大学	13名	平成26年9月
	マニトバ大学	16名(H26) 17名(H27)	平成26年9月
	ウィニベグ大学	13名(H26) 23名(H27)	平成27年9月
オーストラリア	クイーンズランド工科大学	15名	平成27年3月
	サザンクロス大学	20名	
イギリス	ハイランド&アイランド大学パース校	15名	平成28年3月



旅行代金

約40～50万円

留学奨学金（給付型）（平成26、27年度実績）

13万円（アメリカ、カナダ、イギリス）

12万円（オーストラリア）

※原則として短期留学参加者全員に給付しました。

※旅行代金に含まれるもの エコノミークラス利用往復航空券、航空保険料・燃油費、日本・現地空港諸税、現地空港～大学の往復送迎費、宿泊費、授業料・研修費、食費（一部）

※旅行代金に含まれないもの（一部を例示します） 超過手荷物料金、海外旅行保険、長崎又は福岡空港までの往復交通費、その他実費、その他個人的生活諸費用

短期留学に参加した在学生からのメッセージ



2年 大仁田 萌

熊本県立玉名高等学校出身

留学先：イギリス/ハイランド&アイランド大学パース校

私は、春にスコットランドのパースに3週間行きました。現地で通ったパースカレッジでは、ヨーロッパ各国からの学生と共に授業を受けました。授業内容では、英語の4つの技能をバランスよく学ぶことができ、ペアワークやプレゼンテーションなどもありました。英語で文法を学んだり、ヨーロッパ各国の文化と比較したり新鮮なことばかりで、楽しく学ぶことができました。午後からのアクティビティでは、丘を登ったり滝を見たり、スコットランドの素敵な景色に癒されました。ホストファミリーは、優しい夫婦で、毎日おいしい夕食を作って私を待っていてくれました。家では、その日にしたことやスコットランドの歴史などたくさん話をしました。毎日がとても充実していて、たくさんのことを吸収することができた3週間でした。



エディンバラにて

■海外フィールドワーク実習

海外フィールドワーク実習はフィールドワークモジュールの選択科目で、中期・長期留学に準じるものとして実施されます。

アジアやアフリカからフィールドを選定し、他者と出会い、相互作用する中で、グローバル時代の社会人として必要なコミュニケーション能力を高め、同時に専門的な学びを実現することができます。



■中期・長期留学

中期・長期留学は、語学力の向上にとどまらず、学部で学んだ専門知識を土台として、留学先において更に専門性を深めることを目的としています。全て、大学間の学術交流協定に基づく交換留学として実施され、学生は長崎大学に学費を納入し、在学したまま留学することになります（**留学先大学に授業料を支払う必要はありません**）。留学するためには、定められた時期までに英語力及び学業成績に関する一定の学部内要件を満たすことが必要です。

「グローバル社会コース」及び「オランダ特別コース」を選択した学生には原則として、半年から1年間の留学を義務付けます。また他のコースを選択した学生にも、中期・長期留学を推奨します。留学先で取得した単位は、授業内容・レベル・形態の観点から精査し、長崎大学で開講している科目の単位として認定します。そのため中期・長期留学に参加した場合でも4年間で卒業することが可能です。

■留学奨学金（給付型）（平成28年度予定）

◎日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）奨学金

学業成績など一定の基準を満たした学生については、留学期間に応じて最大12ヶ月間、月額6～10万円（留学する地域により異なる）を給付

◎長崎大学海外留学奨学金制度

学業成績など一定の基準を満たした学生については、留学期間に応じて最大3ヶ月間、月額6～10万円（留学する地域により異なる）を給付

※いずれの制度も受給できる人数には限りがあります。また、予算の都合により今後変更される場合があります。

■海外協定先（平成28年4月1日現在）

多文化社会学部には世界各地に海外協定先があり、その数は将来的にさらに増えていく予定です。夢や目標を持って世界へと飛び出していく学生を支援するため、今後も、海外協定先のネットワークを広げていきます。

- 【イギリス】
 - アバディーン大学
 - オックスフォード・ブルックス大学
 - キール大学
 - ノーザンブリア大学ニューキャッスル校
 - ハイランド&アイランド大学パース校
 - マンチェスター・メトロポリタン大学
- 【ドイツ】
 - アウクスブルク応用科学大学
 - ニュルンベルク・ゲオルク・シモン・オーム工科大学
 - ホーフ応用科学大学
 - マンハイム大学
- 【オランダ】
 - ライデン大学
 - ラドバウト大学
- 【ベルギー】
 - モンス大学
- 【フランス】
 - パリ東＝クレテイク大学
- 【スペイン】
 - マラガ大学
- 【ポルトガル】
 - フェルナンドペソア大学
- 【中華人民共和国】
 - 香港教育学院
- 【台湾】
 - 国立政治大学
 - 国立台湾大学
 - 国立台湾師範大学
 - 成功大学
- 【大韓民国】
 - 亜細亞大学
 - 建国大学
 - 東国大学
 - 延世大学（原州キャンパス）
- 【タイ】
 - カセサート大学
- 【マレーシア】
 - テイラーズ大学
- 【ブルネイ】
 - ブルネイ・ダルサラーム大学
- 【フィリピン】
 - アテネオ・デ・マニラ大学
 - フィリピン大学ディリマン校
- 【オーストラリア】
 - ウエスタンジドニー大学
 - エディスコワン大学
 - クイーンズランド工科大学
 - サザンクロス大学
 - サンシャインコースト大学
 - ディーキン大学
 - ビクトリア大学
- 【カナダ】
 - ウィニベグ大学
 - カルガリー大学
 - ニューファンドランドメモリアル大学
 - フレージャーバレー大学
 - マニトバ大学
 - レスブリッジ大学
- 【アメリカ】
 - アーカンソー工科大学
 - ウエスタンイリノイ大学
 - オターバン大学
 - カリフォルニア州立大学モントレーベイ校
 - ディキンソン州立大学
 - ニューヨーク州立大学ジェネセオ校
 - ノーザンコロラド大学
 - ノーザン州立大学
 - ノースイースタンイリノイ大学
 - ノースダコタ州立大学
 - プレスビテリアン大学
 - フロストバーク州立大学
 - ベネディクティン大学
 - ペンシルベニア州立インディアナ大学
 - マーケット大学
 - ロングウッド大学

■留学サポート体制

海外留学に伴うリスクを最小限にするために、学生の安全確保に十分配慮したプログラムを設計しています。学生が海外留学に出かける前には複数回のオリエンテーションを実施しています。留学中は、担当教員が随時電子メール等で学生の相談に応じるほか、適宜、留学先を訪問し、学生の留學生生活の視察や相談、指導を行っており、留学先の担当者と密に連絡を取り合い、学生の状況を把握するとともに、情報を共有することで学部内での啓発推進体制を整えています。なお、過去に実施した短期留学では教職員が一部の旅程を引率しました。また、長崎大学は留學生危機管理サービス(OSSMA)に加入しており、24時間体制で学生の留學生生活をサポートしています。

■留学相談室

多文化社会学部では留学相談室を設置し、留学に関する必要な情報を提供しています。また学生の留学に対する疑問や不安を戦略職員(国際交流ディレクター)に相談することができます。



中期・長期留学に参加した 在学生からのメッセージ

3年 山本 穂奈美

兵庫県立姫路飾西高等学校出身

留学先：オーストラリア/サザンクロス大学

私はオーストラリアのサザンクロス大学に一年間留学しました。長崎大学では社会動態コースに所属しているので、社会学や観光学を主に学びました。講義には講師の話から基礎を学ぶレクチャーと、クラスで話し合い理解を深めるチュートリアルなどがあり、これらを通してただ知識を得るだけでなく実際に応用する力を得ることができました。サザンクロス大学は少人数クラスも多く先生との距離が近いので、英語が第二言語であることの難しさも十分に理解した上で生徒に向かい合ってくれます。都会ではありませんが生活に不便はなく、週末にはゴールドコーストやブリスベンなどの都市に旅行しました。また様々な国からの学生と交流できるため充実した留學生生活を送ることができると思います。



中期・長期留学中の様子

多文化社会学部の学びのシステム

語学力を徹底的に強化し、
人文社会系諸分野を「多文化社会」の観点から再編・統合した学際性に富むカリキュラム

学びの領域	1年次		2年次		3年次		4年次	
多文化社会について学ぶ	短期留学	短期留学	中期・長期留学		中期・長期留学			
	Transition Program	■多文化社会の諸問題 長崎から出発するグローバル世界へ アジア理解への扉 アフリカ理解への扉 オランダ・ヨーロッパ理解への扉 日本を知る	■グローバル社会のしくみ ・多文化のなかのルール(英語) ・多文化社会のガバナンス(英語) ・文化のなかのエコノミー(英語) ・地域をこえるマネジメント ・ジェンダーと人権 ・紛争と平和(英語)	■社会を映し出す文化、文化が作り出す社会 ・文化は社会の鏡なのか ・出来事と表象のあいだ ・他者と生きる技法 ・越境する文化 ・人間観とコスモロジー ・日本の中の世界、世界の中の日本	■多言語を学ぶ、多言語で学ぶ ・英語からたどる文化(英語) ・日本語からたどる文化 ・中国語からたどる文化 ・アジア諸言語からたどる文化 ・ヨーロッパ諸言語からたどる文化 ・アフリカ諸言語からたどる文化	社会グローバル 比較政治(英語) 国際法(英語) 国際開発論(英語) 国際政治学(英語) 軍縮と平和(英語) 国際機構論(英語) グローバル人口学(英語) 国際人権論(英語) 多文化マーケティング論(英語)	国際経営(英語) 国際協力論(英語) アジア経済論(英語)	卒業研究
		オランダ特別コース	オランダ文化論(英語) オランダ現代社会論(英語)	社会動 異文化理解教育(英語) 異文化と家族 グローバル社会学	文化資源論 異文化交流論 トランスナショナルリティ論 アジア海域交流史 社会史 地域生態論(英語)	卒業研究		
		共生文化 異文化間コミュニケーション(英語) 現代言語理論 日本語学 文化表象論 宗教文化論	対照言語学(日中) 対照言語学(日英)(英語) 記憶文化論 コーパス言語学(英語) 地域文化論	卒業研究				
		オランダ特別コース	日蘭比較文化(英語) 日蘭交流史	ライデン大学留学	特別研究			
キャリアについて学ぶ	グローバルキャリアへの扉	自主企画インターンシップ	キャリア形成論					
フィールド調査と研究報告の方法を学ぶ	教養セミナー フィールドワーク入門	フィールドワーク基礎実習 アーカイヴ実習	基礎演習A 映像・デジタルアーカイヴ実習	基礎演習B サーベイ基礎実習(英語) インタビュー調査基礎実習	専門演習I-A 専門演習I-B 海外フィールドワーク実習(英語)	専門演習II-A 専門演習II-B		
外国語コミュニケーションについて学ぶ	英語発音法 Reading and Writing I Reading and Discussion I 英語コミュニケーションI 英語コミュニケーションII 総合英語I 総合英語II	英語の仕組みと意味I	英語の仕組みと意味II Reading and Writing II 総合英語III 中国語総合表現I オランダ語I 初習外国語III	Academic Writing I 英語コミュニケーションIII 中国語総合表現II オランダ語II 初習外国語IV	Academic Writing II Advanced English I 中国語文献討論I オランダ語III	Reading and Discussion II Advanced English II 中国語文献討論II	Debate 中国語プレゼンテーション	
幅広い知識と技法を学ぶ	情報基礎	健康科学 スポーツ演習 全学モジュールI 長崎地域学 キャリア入門	全学モジュールII					

※(英語)は英語による開講科目 赤字=教養教育科目

【カリキュラム概要】主に以下の8つのモジュール等から成り立っています。

Transition Program

1年次前期に大学入門科目と英語科目のみを集中的に受講し、学ぶ力の構造変化を生み出すプログラム。「知の1000時間マラソン」とも呼ばれています。

学部モジュール

1年次に受講する必修科目。多文化社会やその諸問題について学びます。長崎から出発し、アジア、アフリカ、ヨーロッパという3つの地域に関する歴史・社会・言語・文化の基礎的理解をした上で、日本を見直し、再確認するという学習プロセスを経て、グローバルな課題の概要とその背景を理解していきます。

共通基礎モジュール

既存の学問分野の特質を十分に理解した上で、その枠を越えて領域横断的に多文化社会の諸相にアプローチするための基礎的視角と枠組みを身につけます。

フィールドワークモジュール

自ら問いを立て、適切な調査技法を選択し、データを収集し、レポートをまとめるフィールドワークの考え方や技法を学びます。「海外フィールドワーク実習」では、アジアやアフリカなどに行き、グローバルなコミュニケーション能力を高め、同時に専門的な学びを実現します。

中国語モジュール

世界で必要性が増している中国語を学びます。最終的には中国語によるプレゼンテーションができるレベルの力を身につけます。

専門モジュール

3つの専門コースとオランダ特別コース、各コースの専門分野の理解を深めます。オランダ特別コースでは、ライデン大学への留学が必修。ライデン大学では学生の関心と将来計画に即した講義を受講し、ヨーロッパ単位互換制度(ECTS)に準拠したグローバルな専門知識と技能を身につけます。

英語モジュール

英語の仕組みから発音法、リーディング、ライティング、ディスカッション、ディベートまで学び、高度な英語力の修得を目指します。

留学、その他インターンシップなど

「グローバル社会コース」の学生に中期・長期留学を義務付けます。また、他のコースでも留学を推奨します。中期・長期留学は全て交換留学として実施され、在学したまま留学することになります(留学先大学に授業料を支払う必要はありません)。学部で学んだ専門知識を海外において展開し、自立した生活者としての体験を通して自己認識を深めることを目的としています。

グローバル社会コース

法学、政治学、
経済学などを中心に、
国際社会の「仕組み」を学ぶ

グローバル社会コースでは、法学、政治学、経済学など社会科学の学問領域を中心に、国際社会の「仕組み」を学びます。

世界の国々、市民が国境を越えて相互に依存する国際社会は、多様な文化や歴史の蓄積のうえに成り立っています。このコースでは、社会基盤としての歴史、文化、言語を踏まえて、国際社会の仕組みを理解するためのカリキュラムを設計しています。また、専門モジュールのすべての授業を英語で行い、さらに、中期・長期留学を必修とするなど、英語を駆使して世界を舞台に柔軟に活躍する人材の育成を目指しています。



《開講科目》

- ・国際機構論 (英語)
- ・軍縮と平和 (英語)
- ・国際法 (英語)
- ・国際政治学 (英語)
- ・比較政治 (英語)
- ・国際経営 (英語)
- ・国際開発論 (英語)
- ・国際人権論 (英語)
- ・グローバル人口学 (英語)
- ・国際協力論 (英語)
- ・アジア経済論 (英語)
- ・多文化マーケティング論 (英語)

Teacher's Voice



【国際政治学】

社会のために国際政治を学び
グローバルな視点を
身につけましょう。

森川 裕二 教授

グローバルな視点から国際政治の動きについて学びます。私たちは国際政治秩序の歴史的な転換期を迎えており、世界が一体化する地球化(グローバル化)が進むことで、一方ではこれまでの国際秩序が揺らぎはじめ、他方では市民やNGOといった国家以外のアクターが国境を超えて活動しています。このような変動する世界について自分で考える視点を養います。座学が中心ですが、とくに国際情勢を理解するために海外メディアや国際報道の「読み方」についてグループワークも随時取り入れて学びます。

多文化社会学部でグローバルな視点を身につけることが、学生のみなさんの使命です。自分のために勉強するのではなく、社会のために国際関係について勉強しているという意識を持ち、現実の社会を批判的に論じ、未来社会を構想する力として発揮してほしいと思います。

Student's Voice



【国際開発論】

貧困・開発は、
世界全体で取り組まなければならない
主要な課題の一つです。

3年 廣岡 胡美

福岡県立北筑高等学校出身
留学先：イギリス/アバディーン大学

街中で募金箱を見た際、ドキュメンタリー番組を観た際に、「なぜ貧困はなくなるのか？自分にできることは何かあるのか？」と考えたことはありませんか？「国際開発論」では、貧困・開発問題について考える際に必要となる基礎を身につけることが出来ます。まず、貧困の削減をはじめとする開発目標の達成に向けて、実際にどのような取り組みが行われているか把握します。次に、なぜ貧困などの問題が起きているのか、その背景を分析します。最後に、問題の解決に向けた課題やアプローチの仕方について議論をします。講義は英語で開講されており、講義中に配布される資料も全て英語ですが、具体例や図を交えて説明して下さるので、楽しみながら受講しています。

社会動態コース

社会学、文化人類学、
歴史学を中心に、
多文化社会を動的に理解する

社会動態コースでは、社会学、文化人類学、歴史学を中心として、多文化社会を動的に学びます。

長い歴史において、ヒトやモノや情報は常に移動を繰り返してきました。世界のどこかで発生した小さな変化が、人々の行動や情報伝達を通じて他の場所で大きな、思いもよらぬ変化をもたらしたりします。こうした全体的な変化のあり方を「社会動態」といいます。その動態を学ぶために、このコースではフィールドワークによる問題発見、調査、成果公表のスキルを身に付けることを重視します。



《開講科目》

- ・異文化理解教育 (英語)
- ・トランスナショナルリティ論
- ・異文化と家族
- ・グローバル社会学
- ・アジア海域交流史
- ・社会史
- ・異文化交流論
- ・文化資源論
- ・地域生態論 (英語)
- ・グローバル文化交流史
- ・現代アジア社会論
- ・現代アフリカ社会論 (英語)

Teacher's Voice



【現代アジア社会論】

さまざまな観点から
アジアを認識し新しい価値を
創造していきましょう。

首藤 明和 教授

既存のアジア認識のあり方を揺さぶるために「少数民族」や「漂泊の民」「地域のキーパーソン」などに着目して講義を進めます。またアジアの家族、コミュニティ、地域、国民社会、市民社会に対する理解を深めるとともに、トランスナショナルに展開する人々のネットワークにも着目します。

“近代知”には、人が人を支配したり、人が自然を支配することを当たり前のこととして捉えてしまう危険が潜んでいます。学生のみなさんには、ディベートやグループワーク、プレゼンなど積極的な学びの中で問題意識を深め、何のために学ぶのか、学ぶとはどういうことなのかということまで考えてほしいと思います。誰もが自身の持つセンスを開放でき、生きとし生けるもの全てに居場所がある社会になるよう、新しい価値の創造に携わってください。

Student's Voice



【異文化理解教育】

様々な背景を持つ人々が
共生するために、
教育が果たす役割を考えます。

3年 久保 沙織

高知県・高知学芸高等学校出身
留学先：ブルネイ/ブルネイ・ダルサラーム大学

この講義では、教育で異文化理解をどのように促進していけるのか、ヨーロッパとイスラームの関係に着目しながら、異文化理解教育の歴史や実際の取り組みなどを通じて考えていきます。また、この授業は英語で開講されるので、課題や発表などももちろん英語中心となります。日本語開講のものとは比べると大変だと感じることはありますが、同時に外国語で学ぶことのやりがいと楽しさを感じさせてくれます。

今日、世界規模での人の移動が活発になっており、様々な文化や宗教、民族的背景を持つ人々が同じ社会で暮らすことは決して珍しくありません。多文化社会における教育について考えることは、今後更に多様化する社会をより良いものにするでしょう。

共生文化コース

多文化共生社会の基礎となる言語や文化の重要性を学ぶ

共生文化コースでは、思想、文化表象、メディア、言語等の面から多文化共生社会の基礎となる言語や文化の重要性を学びます。

世界がグローバル化すると、多様な文化的・言語的背景を持つ人びとが同じ空間の中で出会い、共生する機会が増えます。このコースでは、人びとが互いを認め合うための土台である思想、文化、言語に焦点を当て、他者との共生を豊かなものにするための人間観、文化理解、コミュニケーション技法を探求します。

また、教育職員免許状取得に必要な科目の単位をすべて修得した場合、卒業時に高等学校教諭一種免許状(英語)が取得できます。



《開講科目》

- ・日本思想史
- ・中国思想史
- ・宗教文化論
- ・文化表象論
- ・記憶文化論
- ・地域文化論
- ・メディア文化論(英語)
- ・現代言語理論
- ・異文化間コミュニケーション(英語)
- ・対照言語学(日中)
- ・対照言語学(日英)(英語)
- ・日本語学
- ・コーパス言語学(英語)

Teacher's Voice



【日本語学】

自己の基盤となっている言語について学んでおくことも大切です。

池田 幸恵 准教授

日本語を音韻や文法、語彙などのさまざまな面から考察することにより、日本語とはどのような言語なのかを学びます。言葉はコミュニケーションの道具であるだけでなく、外界を認識する際の枠組みでもあります。日本語という言語の仕組みを深く考察することは、日本語話者の物の見方や考え方を理解する助けになるでしょう。また日本語には中国大陸や朝鮮半島などの関わりの中で形成されてきた歴史があります。その歴史を学ぶことで、今後日本語に起こり得る変化を見通すことも可能になるでしょう。グローバルに活躍するためには、自分の基盤である日本の文化や言語について知識を持っていることも大切です。学生たちには本学部で世界のことを知ると同時に日本のことも深く学び、「日本」を発信する人材に育ってほしいと思っています。

Student's Voice



【文化表象論】

私たちの日常生活は、「表象」されたもので溢れているのです。

3年 重山 千夏

宮崎県立宮崎大宮高等学校出身
留学先：マレーシア/テイラーズ大学

この講義では、「文化」のなかにおける「表象」というプロセスに焦点を当てていきます。「表象」とは、いま-ここに存在しないものを描き出すことを指します。一見難しく思えますが、「表象」は映画や新聞といったメディア、そしてインタビュー調査や口述史などの学問分野だけでなく、自分が体験した出来事を友達に話すといった日常的なことも含むため、とても身近なものでもあるのです。講義の中では、実際に、映画や小説などの分析を行っていくため、これまで観ていた作品が全く違った表情で見えてくる楽しさを味わうことができます。こうして、自分の常識を覆すような新たな知見に出会えることが、大学における学びの醍醐味ではないのかと思います。

オランダ特別コース

オランダを起点にヨーロッパ社会について学ぶ

オランダという、長崎に縁の深い地域に特化した、日本で唯一、世界でも珍しいコースです。オランダのライデン大学への1年間の留学を必修とし、定員は10名。かつての日本にとって西洋文化との接点であったオランダを知ることで、日本をかえりみる視点を養います。また、ヨーロッパ全体に関する知識を高めるとともに、現代オランダの大胆な政策から、日本社会の近未来の課題を考察。つまり“オランダを入口に世界と日本を学ぶ”というのが、この特別コースです。



《開講科目》

- ・オランダ文化論(英語)
- ・オランダ現代社会論(英語)
- ・日蘭比較文化(英語)
- ・日蘭交流史
- ・オランダ語Ⅰ
- ・オランダ語Ⅱ
- ・オランダ語Ⅲ

Teacher's Voice



【オランダ文化論】

オランダはヨーロッパ諸国、世界各国の企業の架け橋です。

ボイケルス ハルメン 教授
(ライデン大学招聘教授)

オランダは、ヨーロッパの国々の中では比較的小さな国です。ですがヨーロッパにおけるオランダの重要性は、単に数字で語ることはできません。例えば、欧州連合の創設を定めたマーストリヒト条約(1993)締結においては、オランダの首相が特別な役割を果たしました。彼は、北欧および南欧の政府間の溝を埋めるのに尽力し、その結果、欧州中央銀行やユーロの導入に貢献しました。オランダの社会的な風土や政治・行政制度は、世界各国の企業の進出拠点としてふさわしい投資・ビジネス環境を提供しています。さらにオランダは、国際的企業がヨーロッパ諸国に展開する際のハブの役割も果たしています。また、日本企業は、ヨーロッパの中でオランダにもっとも多く進出しています。これらはあくまで一例ですが、「オランダ文化論」の授業を通じて、オランダのことを更に深く知る機会になることを期待しています。

Student's Voice



【日蘭交流史】

日蘭400年の歴史を知ること、今のオランダを見つめる目を養うことです。

3年 塚田 優津

長野県長野高等学校出身
留学先：オランダ/ライデン大学

事前に配布された課題資料の内容から各自が読み取った事象や状況について発表し合い、議論をします。それに対し、先生が日本とオランダの歴史的な流れに沿って解説する、というのがこの講義の流れです。扱う資料内容は、1600年のオランダ船リーフェ号豊後漂着から1951年のサンフランシスコ講和条約までの350年にわたる日蘭関係に関するものです。これらに政治や経済、文化など様々な角度からアプローチすることで、オランダが日本とのまた世界との間でどのようなトラブルに直面し、それをどのように克服してきたかを読み解き、そうした日蘭関係の歴史的ベースの上にある現代の日本とオランダのありかたまで理解を広げます。資料のなかには昔の文体のものもあり、難しい言葉の言い回しや見たことのない漢字に苦戦することもあります。近代以前の日蘭関係の意外な関係を垣間見ることができ、毎回楽しみながら受講しています。

多様な知識と経験を持つ教員との出会いも 多文化社会学部の大きな魅力

多文化社会学部には、海外の様々な文化に通じる日本人の教員と外国籍もしくは外国出身の教員が在籍しています。様々な現場で実務経験のある教員も多く情報に奥行きがあり、実践的な知識が詰まった講義が展開されます。これから多文化社会へと羽ばたいていく皆さんにとって多様なバックボーンを持つ教員たちとの出会いはかけがえない学びの機会となることでしょう。



教授
稲田 俊明
INADA, Toshiaki
【現代言語理論】

専門は言語学、英語学、言語獲得。言語共通の法則と言語固有の特性や多様性について、英語や日本語の事例を中心に研究。関連して、子供の言語獲得のモデルを研究。



教授
木村 直樹
KIMURA, Naoki
【日蘭交流史】

日本近世政治・外交史(対外関係史)について、長崎を起点に研究。島原の乱や、九州発近世屈指の大飢饉である寛永飢饉についても研究。



教授
源島 福己
GENJIMA, Fukumi
【キャリア形成論】

海外留学やインターンシップがグローバル人材育成や社会人基礎力に及ぼす影響を研究。今は非英語圏における日系企業の人材育成が主な研究テーマ。



教授
佐久間 正
SAKUMA, Tadashi
【日本思想史】

専門は日本思想史。徳川日本を中心に日本思想史の研究を進めてきたが、近年は環境思想史の構築を目指すとともに、琉球王国の思想を研究。



准教授
池田 幸恵
IKEDA, Yukie
【日本語学】

専門は日本語学、日本語史。漢語の日本における意味変化など、語彙や文体の面から日本語史を研究。近年は、コーパスを用いた日本語研究にも取り組む。



准教授
近江 美保
OMI, Miho
【国際人権論】

専門は国際法、国際人権法、フェミニズム国際法学。女性差別撤廃条約をはじめとする国際的な人権保障システムや、人権及びジェンダーと国際経済法の関係について研究。



准教授
カトローニ・ピノ
Cutrone, Pino
【異文化間コミュニケーション】

専門は、異文化語用論、応用言語学/TESOL、国際法学。女性差別撤廃条約をはじめとする国際的な人権保障システムや、人権及びジェンダーと国際経済法の関係について研究。



准教授
グラジディアン・マリア
Grajcian, Maria M.
【メディア文化論】

文化人類学、音楽学、日本学が専門。現代日本の大衆文化・音楽に焦点を当て、ポスト近代社会に潜む「危険性」を探索。宝塚歌劇、アニメ、村上春樹が主な研究対象。



教授
首藤 明和
SHUTO, Toshikazu
【現代アジア社会論】

家族・コミュニティ・市民社会・民族・国家や、越境を伴う移動とネットワークに着目し、アジアの社会と文化の分析を通して共生社会のあり方を模索。



教授
中村 則弘
NAKAMURA, Norihiko
【グローバル人口学】

専門は、国際社会学、社会変動論。西欧社会知と対比しつつ、脱オリエンタリズムを軸にグローバル化時代のなかでアジアの諸価値体系のもつ意味を批判的に問い直す。



教授
西原 俊明
NISHIHARA, Toshiaki
【コーパス言語学】

専門は、言語学、英語学、応用言語学。英語を中心に、言語に見られる普遍性・個性についてコーパス等を用いて研究。



教授
葉柳 和則
HAYANAGI, Kazunori
【文化表象論】

専門は文化社会学。主テーマとして多言語国家スイスのナショナル・アイデンティティ、副テーマとして近現代長崎の都市イメージを取り上げ、表象の政治という視点から研究。



准教授
白井 章詞
SHIRAI, Shoji
【自主企画インターンシップ】

大学におけるキャリア教育について、教育効果と問題点を調査・研究。若者の職業能力の開発に資する教育プログラムの開発と実践にも取り組む。



准教授
鈴木 英明
SUZUKI, Hideaki
【グローバル文化交流史】

専門は歴史学、世界史、インド洋海域史。グローバル化する世界に生きる私たちがどのような世界史像を持てばよいのかをインド洋海域世界をも取り込む。



准教授
滝澤 克彦
TAKIZAWA, Katsuhiko
【宗教文化論】

専門は宗教学、モンゴル研究。現代モンゴル国のキリスト教流行現象や、東日本大震災後の祭礼復興などを対象として、社会と宗教の動的関係について研究。



准教授
谷川 晋一
TANIGAWA, Shin-ichi
【対照言語学(日英)】

英語学、言語学、文法論が専門。英語と日本語を中心とした文法。特に語順の変化が意味解釈にどのような影響を与え、なぜそのような動的関係について研究。



教授
広瀬 訓
HIROSE, Satoshi
【国際機構論】

専門は国際機構論、軍縮、安全保障論。核軍縮交渉のプロセス、特に核不拡散条約(NPT)を中心とした多国間交渉における、人権の確保を保障するための法的枠組みの可能性を研究。



教授
門司 和彦
MOJI, Kazuhiko
【グローバル人口学】

専門は人類生態学。環境と健康の関連を一体として捉えるエコヘルスの視点にたつて、集団の健康と生存についての人類生態学的研究をアジアやアフリカの調査地で研究。



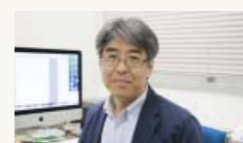
教授
門司 裕二
MORIKAWA, Yuji
【国際政治学】

国際政治の仕組みが、一体化する世界の中でどのように変化しているのか、国際政治の理論的な基礎を歴史的な背景や現実の社会の動きに照らして研究。



教授
森川 晓安
YANG, Xiaohan
【対照言語学(日中)】

専門は応用言語学、実験音声学。実験音声学の手法を用いて、音声分析ソフトによる音声分析を通して、中日両言語の音声構造と文法・語義の関係について研究。



准教授
野上 建紀
NOGAMI, Takenori
【アジア海域交流史】

専門は考古学。陶磁器を生産した窯、運んでいた船、消費していた都市の遺跡を調べて、「陶磁の道」とも呼ばれる「海のシルクロード」を研究。



准教授
波佐間 逸博
HAZAMA, Itsuhiro
【地域生態論】

アフリカの牧畜社会でフィールドワークを行い、暴力紛争や民族的病いの問題、他者や動物との共生とコミュニケーションについてサバンナの生活者自身の目線から研究。



准教授
正本 忍
MASAMOTO, Shinobu
【社会史】

専門はフランス近代社会史、法制史。フランス北西部ノルマンディー地方を主なフィールドとして近世フランスの統治構造および社会構造の研究。



准教授
増田 研
MASUDA, Ken
【現代アフリカ社会論】

専門は社会人類学。アフリカ、アジア、日本の各地で社会の成り立ちと歴史を追いかけています。近年は、開発途上国における保健と高齢化の問題に取り組む。



教授
連 清吉
REN, Seikichi
【中国思想史】

専門は中国思想、日本漢学。中国古代思想、とりわけ儒家と道家思想の在り方及びその現代的意義と、日本近代における中国学の変容を研究。



教授
王 維
Wang, Wei
【異文化交流論】

長崎をはじめ、世界各地におけるチャイナタウン及び華人系社会・文化及び上位社会との交流史、音楽受容史、異文化観光について研究。



准教授
南 誠
MINAMI, Makoto
【トランスナショナリティ論】

専門は歴史社会学、国際社会学。中国帰国者の調査や、満洲の歴史と記憶の国際比較を手がかりに、近代東アジアにおける境界文化の生成と溶解について研究。



准教授
見原 礼子
MIHARA, Reiko
【異文化理解教育】

専門は比較教育学、教育社会学。ヨーロッパを主なフィールドとして、多文化社会における移民の教育問題や子どもの虐待問題を研究。



助教
石川 真由美
ISHIZUKA, Mayumi
【国際法】

専門は国際法。19世紀スコットランドを軸とした国際法説・思想史、軍縮・軍備管理をめぐる国際法規範及び国際環境法の研究に取り組む。



助教
山下 龍
YAMASHITA, Noboru
【オランダ語I・II・III】

①日本人を対象としたオランダ語教育、②日本人を対象とした英語教育、③日欧比較文化の研究(現在は主に日本茶道文化史の研究)、④日蘭交流史(現在は主に山出島と医学の研究)

1年次から途切れなく提供する独自のキャリア教育プログラム

グローバル化が加速する時代のライフコースを視野に入れて、独自のキャリア教育プログラムを提供しています。

1年次の学部モジュール科目「グローバルキャリアへの扉」では、国際関係機関、国際NGO、ジャーナリズムといった社会人経験を持つ教員が講師となって経験に基づく授業を行い、将来のキャリアを形成するための課題について議論しながら学びます。さらに、正規の授業科目と並行し「キャリア支援講座」を実施しています。これは、各界のグローバル最前線で活躍する講師を招聘し、社会の現況を知ると同時に、学生時代から現在に至るまでどのようなキャリアを形成してきたのか、学生時代にどのような能力を習得する必要があるのか、を学ぶ講座です。

キャリア支援講座



白川方明氏



成瀬悠氏

白川 方明氏 (日本銀行前総裁) 「グローバル社会の中央銀行と私のプロフェッショナル・ライフ」
成瀬 悠氏 (特定非営利活動法人(NPO法人)「ハロハロ」代表) 「誰もが魅力的に働き生きる社会へ」
木村 暁代氏 (JICA アスク長崎・国際協力推進員) 「国際協力って何だろう～青年海外協力隊の経験から～」
羽藤 秀雄氏 (特許庁元長官、平成26年現顧問) 「グローバル時代の産業政策・知財政策と私のキャリア」
的野 佑妃子氏 (クリエイティブオフィス 代表) 「夢をカタチに・・・ワタシのためのキャリアデザインセミナー」
パナソニック株式会社、株式会社再春館製薬所、アイ・ケイ・ケイ株式会社 「グローバル業界セミナー&個別座談会」 ※多文化社会学部生のみを対象に特別実施

また、自らの主体的な意思と努力によって職業世界を経験することも重視しており、「自主企画インターンシップ」として学生の自主的な参加を前提とした選択科目も設定しています。主として2年次の学生を対象に、夏季休業等の長期休業期間中に国内外企業等において2週間～1か月程度実施します。3年次には、専門教育科目として「キャリア形成論」を必修化しています。

このように、1年次から途切れなくキャリア形成のためのプログラムを提供することにより、自己の強みを最大限に活かすことのできる将来目標を設定するための支援体制を、全学のキャリアセンター機能と連携しながら整備しています。

■キャリア支援のステップ

正規科目「地域をこえるマネジメント」のほか、自分を見つめながら、将来の仕事を通じた成長に主体的に向き合うことのできる力を創造することを目的に、学部独自の「キャリアコンサルティング」と「就職ガイダンス」を1年次から実施します。中期・長期留学を経験する学生にも、こうしたキャリア形成の中での意識づけを目的に留学期間中もサポートします。

☀️ 取得できる資格・免許

多文化社会学部では学生が資格や免許取得に積極的に取り組める環境を整えています。

高等学校教諭一種免許状(英語)

共生文化コースに進んだ学生は、教員免許関連科目の単位を修得することで、英語教員免許「高等学校教諭一種免許状(英語)」を取得することができます。高等学校の教員として必要な資質を身につけるとともに、学部教育を通じて獲得した卓越した英語力を、高等学校という教育現場で生かすための、効果的な指導法や教材開発手法を学ぶことができます。

日本語教員基礎資格

多文化社会学部で開講される日本語教員基礎資格科目を履修し、所定の単位数を取得した学生に対して「日本語教員基礎資格」を認定し、卒業時に日本語教員養成プログラムの修了証を交付します。世界では400万人近い人々が日本語を学習していますが、教師の数はまだまだ不足していると言われています。とりわけ英語の堪能な日本語教師に対する需要は高く、多文化社会学部で学んだ学生にとって適した資格だと言えます。

■キャリア支援・就職支援

長崎大学では、ガイダンスやセミナーなどの開催、相談や面接指導を行い、就職活動を全面的にバックアップするため、キャリア支援センターを開設しました。また、長崎大学生が関東方面で就職活動をする際の拠点となる東京事務所も活用されています。

長崎大学ラウンジ

就職活動の中心となる東京、大阪、名古屋、広島、福岡でも、長崎と同様に学生が就職支援を受けられるよう「長崎大学ラウンジ」を開設しています。パソコンや更衣室の利用、就職カウンセリングや求人紹介、スキルアップセミナーの利用などができます。

キャリア相談

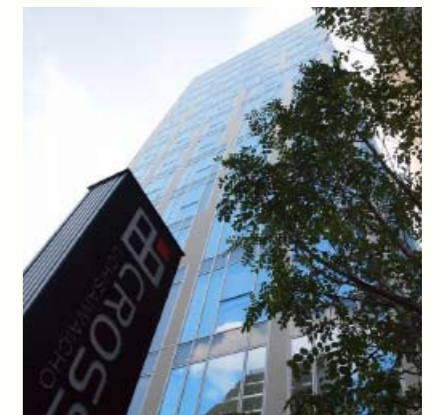
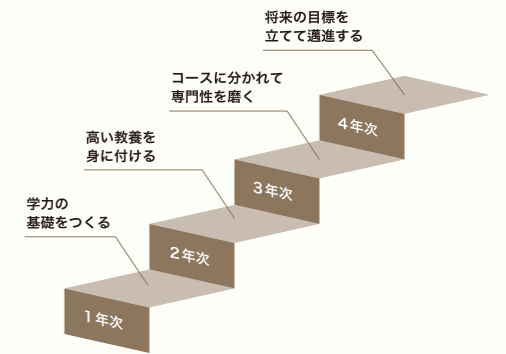
充実した就職活動を行えるようにキャリア相談を実施しています。相談内容は、就職やキャリアデザインに関することなら何でも構いません。また、さまざまな疑問や不安を専門家(キャリアカウンセラー・アドバイザー)に話すことができます。

学内合同企業説明会

本学学生に対する採用意欲の高い企業が集結するセミナーです。企業の人事担当者と話すことで仕事や社風について知ったり、自己の適性をはかることができます。

NU-Naviシステム (就職情報総合支援システム)

学生へ充実した就職情報と支援を提供するためのシステムです。企業・求人情報検索・インターンシップ情報・就職何でも相談・学内説明会等の情報・予約・SNS機能等・重要なお知らせは直接登録メールアドレスへ配信などの機能があります。



長崎大学東京事務所(クロスオフィス内幸町)

TOPICS

ナガサキ・ユース代表団第4期生メンバーに多文化社会学部の学生が選出されました！

ナガサキ・ユース代表団は、長崎県、長崎市、長崎大学の3者が構成する「核兵器廃絶長崎連絡協議会」が主催する人材育成プロジェクトであり、核軍縮・不拡散問題に関する国際会議への参加とその事前事後の活動を通じて、次世代を担う長崎の若者が最新の国際情勢を学ぶとともにこの分野で活躍する世界の人々と出会い、知識を行動に結びつける力を養うことを目指しています。第4期生メンバー全10名のうち、多文化社会学部から3名の学生が選出されました。

ナガサキ・ユース代表団参加者の声

3カ国を訪問し、若者がアクションを起こす必要性を感じました。



2年 白波 宏野
熊本県立宇土高等学校出身

私は2016年2月末から約2週間、ナガサキ・ユース代表団としてモンゴル、中国、韓国の3カ国を訪問し、各国の政府関係者や法人団体、若者たちとの意見交換を通して「核兵器廃絶」に向けて私たちができるアプローチを探求して参りました。昨年12月から始動したこの活動では企画を自分たちで一から練り、各国の核問題や世界情勢を時間をかけて学んでいきました。実際の3カ国での活動では各国の立場から物事を捉えたり、外から見た日本を知ることができ、今までになかった視点を身につけることができました。

今年で戦後71年を迎え、ここ長崎でも被爆者の平均年齢が80歳を超えるなど「戦争の記憶」が段々と薄れてきています。その中で、「戦争の記憶」を次世代に継承する役割は私たち若者にあり、また、「戦争の記憶」が根強く残るナガサキに生きている点にもその使命があります。若者×ナガサキ。私たちナガサキの若者にしかできないこと、私たちだからできることがたくさんあります。今回、ナガサキ・ユース代表団として核問題を通し様々な貴重な経験ができたのも、長崎大学に入学し、ここナガサキの地で学びを深めてくれたからです。

多文化社会学部からの参加メンバー

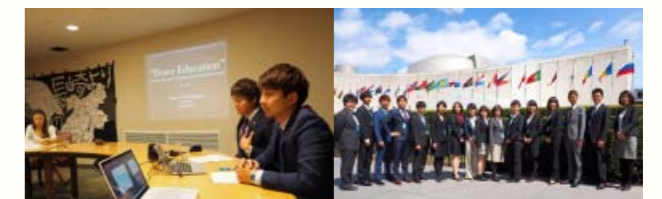
3年 稲垣 歩海(愛知県立尾北高等学校出身)
3年 秀 総一郎(熊本県・真和高等学校出身)
2年 白波 宏野(熊本県立宇土高等学校出身)



ナガサキ・ユース代表団活動の様子

第3期メンバーが「NPT再検討会議」に参加しました！

第3期メンバーにも多文化社会学部から3名の学生が参加しました。2015年にニューヨーク国連本部で開催された「NPT(核兵器不拡散条約)再検討会議」に出席し、国連内でのワークショップ主催を含めた多岐にわたる活動を行いました。



NPT再検討会議での活動の様子

CAMPUS LIFE

勉強はもちろんサークル活動や学内イベントにも参加して
キャンパスライフをより充実したものにいきましょう。

**April
4月**
*1年生入寮
*入学式
*前期授業開始
*新入生合宿研修



新入生合宿研修



入学式

**May
5月**
*開学記念日

**June
6月**
*TOEFL ITP 受験



授業風景

**July
7月**
*オープンキャンパス
*前期授業終了
*前期定期試験

**August
8月**
*教養ゼミナール成果発表会
*夏季休業
*夏季英語集中講座



短期留学(アメリカ)

**September
9月**
*短期留学



短期留学(カナダ)

**October
10月**
*後期授業開始
*TOEFL ITP 受験



学園祭

**November
11月**
*学園祭

**December
12月**
*冬季休業



英語カフェ

**January
1月**
*後期授業終了
*後期定期試験
*TOEFL ITP 受験

**February
2月**
*後期授業終了
*後期定期試験
*TOEFL ITP 受験

**March
3月**
*短期留学
*春季休業
*卒業式



卒業式



短期留学(オーストラリア)

キャンパス外の日常生活においても 多文化状況の交流を体感 —国際学寮ホルテンシア

多文化社会学部の新入生は、入学時から1年間は原則として、寮で生活を共にすることになります。1ユニット4人(外国人留学生1人を含む)のルームシェア形式で、新入生同士や外国人留学生と共同生活を送りながら、大学キャンパス外の日常生活でも多文化状況の中での交流を体感することができます。

なお、防犯対策として、各ユニットの玄関にはカードキー対応ドアを、各個室には暗証番号対応ドアをそれぞれ装備しています。



個室



共有スペース



国際学寮ホルテンシアの外観

【所在地】

(A棟) 長崎市白鳥町8-77

(B棟) 長崎市白鳥町8-78(ともに大学まで徒歩12分程度)

【収容人数】

135人(A棟72人・B棟63人)

1ユニット4人(外国人留学生1人を含む。)のルームシェア形式(ただし、1ユニットのみ車椅子対応の3人のルームシェア)

※入学者の状況によっては、外国人留学生とのルームシェアとしない場合があります。

【入居費用】

月額22,000円(ただし、水道光熱費を除く。)

※上記のほか、入居時に借家人賠償責任保険等の加入が必要です。

※退去時のクリーニング費用として、10,000円が必要です。

【施設】

集会室、駐輪場

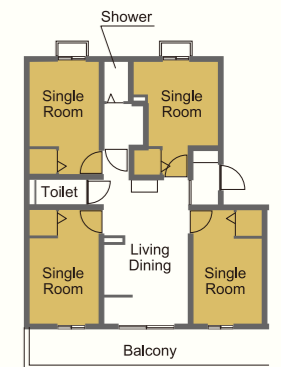
【設備】

[個室] エアコン、光回線インターネット、TV端子、照明、机、椅子、ベッド、電気スタンド、暗証番号対応ドア

[共有スペース] シャワールーム、システムキッチン、ダイニングセット(テーブル、椅子)、冷蔵庫、電子オーブンレンジ、全自動洗濯機、衣類乾燥機、カードキー対応玄関ドア等

【食事】

食事の提供はありません。共同キッチンで自炊することができます。



寮生活を振り返って



昨年度寮長 2年 宮城 敬

沖縄県・昭和薬科大学附属高等学校出身
留学先: アメリカ/ベネディクティン大学

ホルテンシアでの生活は社会に出る一歩手前の大学生にとって、非常に有意義な時間であったといえます。なぜなら社会に出れば、色々な人がいる中で、気の合う人も合わない人も同じ現場で働くことになる機会が少なからずあると思

うからです。そうした環境においても、普段と変わらないパフォーマンスを発揮する能力というのは、社会人にとって不可欠であるといえます。そういった観点から見ると、異なるバックグラウンドを持つ留学生を含めた四人一組での共同生活は、とても貴重な経験であり、上記の能力の一部を培ってくれたといえます。寮生活に対する意見は人それぞれですが、ポジティブなこともネガティブなこともすべて一つの経験として受け止めれば、必ず将来に生きてくると信じています。



共有スペースでの生活の様子

平成29年度入試情報

求める学生像

- 英語を主とする外国語の運用能力の基礎が充実している者
- 世界の多文化状況や異文化交流に興味、関心を持ち、グローバルな視点で自ら学ぼうとする意欲のある者
- 世界の多文化状況を客観的に捉え、見出された課題の解決に向けて論理的に思考できる素養をもつ者
- 世界規模の多種多様な考え方や価値観を尊重しつつ、それらについて批判的に思考できる素養をもつ者

一般入試 ※詳細は、11月下旬発表予定の「平成29年度一般入試学生募集要項」をご覧ください。

コース名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										
		教科	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	面接	配点合計
グローバル社会コース 社会動態コース	前期 2月25日(土)	国 地歴 公民 数理 外	国 世B / 日B / 地理B 現社 / 倫 / 政経 / 倫・政経 数I / 数I・数A / 数II / 数II・数B ①物理基礎 / 化学基礎 / 生物基礎 / 地学基礎から2科目 ②物理 / 化学 / 生物 / 地学から1科目 英 / 独 / 仏 / 中 / 韓から1科目	外 その他	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ 批判的・論理的思考力テスト(総合問題)	センター試験	50	25		25		200				300
	後期 3月12日(日)	国 地歴 公民 外	[3教科3科目] 国 世B / 日B / 地理B 現社 / 倫 / 政経 / 倫・政経 英 / 独 / 仏 / 中 / 韓から1科目	その他	小論文 面接	センター試験	50	50				200				300
オランダ特別コース	前期 2月25日(土)	国 地歴 公民 数理 外	国 世B / 日B / 地理B 現社 / 倫 / 政経 / 倫・政経 数I / 数I・数A / 数II / 数II・数B ①物理基礎 / 化学基礎 / 生物基礎 / 地学基礎から2科目 ②物理 / 化学 / 生物 / 地学から1科目 英 / 独 / 仏 / 中 / 韓から1科目	外 その他	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ 批判的・論理的思考力テスト(総合問題) 面接	センター試験	50	25		25		200				300
	後期	実施しない					実施しない									
	計	50	25		25		300	200				600				

(注1) 地歴・公民を2科目受験している場合は、第1解答科目を採用する。
 (注2) 数学及び理科を学部が指定している科目数より多く受験している場合は、高得点科目を採用する。ただし、理科については第2解答科目は採用しない。
 (注3) 大学入試センターが発表する大学入試センター試験(本試験)平均点(中間集計その2)における英語の平均点(筆記試験とリスニングテストの平均点の合計を200点満点に換算)が、115点を下回る場合は、大学入試センター試験の外国語科目の得点率(英語に限る)を見直すことがある。なお、得点率の見直しの有無及び見直し後の得点率は、平成29年1月23日頃に長崎大学ホームページ(入試情報サイト)で発表する。

AO入試Ⅰ ※詳細については、7月上旬頃発表予定の「平成29年度AO入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日 (第2次選考日) **平成28年10月1日(土)**

試験方法等 自己推薦書、調査書等、個人面接及び筆記試験の結果を総合して合格者を決定します。

※新しく、グローバル・国際バカロレア枠を追加しました。

一般枠の出願には、TOEFL iBT®61点以上、TOEFL®PBT500点以上、TOEFL Junior®Comprehensive341点以上、TOEIC®730点以上、TOEIC®+TOEIC® S&W1000点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上、IELTS5.5以上、GTEC for STUDENTS (L&R&W) 700点以上、GTEC for STUDENTS (L&R&W) + (S) 850点以上又はGTEC CBT1040点以上のいずれかのスコア・級が必要です。
 注1) 外国語検定試験は、平成26年8月以降に受験した試験に限り、ただし、実用英語技能検定(英検)については、二次試験を平成26年8月以降に受験した試験とします。
 注2) 外国語検定試験は、公式スコアを対象(TOEFL ITPを除く)とします。
 注3) グローバル・国際バカロレア枠の出願要件については募集要項をご覧ください。

帰国子女入試 ※詳細については、9月上旬頃発表予定の「平成29年度帰国子女入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日 **平成28年11月16日(水)**

試験方法等 提出された書類及び面接(日本語及び英語による)の成績の結果を総合して合格者を決定します。

出願には、TOEFL iBT®75点以上、TOEFL®PBT537点以上、TOEIC®750点以上、実用英語技能検定(英検)準1級以上又はIELTS6.0以上のいずれかのスコア・級が必要です。
 注1) 外国語検定試験は、平成26年11月以降に受験した試験に限り、ただし、実用英語技能検定(英検)については、二次試験を平成26年11月以降に受験した試験とします。
 注2) 外国語検定試験は、公式スコアを対象とします。

外国人留学生入試 ※詳細については、9月上旬頃発表予定の「平成29年度外国人留学生入試学生募集要項」をご覧ください。

試験日 **平成29年1月25日(水)**

試験方法等 「TOEFL®等の成績」、「日本留学試験(日本語、総合科目及び数学コース1)」、「面接(日本語及び英語による)」の得点を総合して合格者を決定します。

出願には、TOEFL iBT®61点以上、TOEFL®PBT500点以上、TOEIC®730点以上又はIELTS5.5以上のいずれかのスコア・級が必要です。
 注1) 外国語検定試験は、平成26年11月以降に受験した試験に限り、ただし、実用英語技能検定(英検)については、二次試験を平成26年11月以降に受験した試験とします。
 注2) 外国語検定試験は、公式スコアを対象とします。

入学者選抜の基本方針

多文化社会学部の入学試験では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎的・基本的知識と教育課程を通して育成される、論理的批判的思考力・判断力・表現力を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、選抜にあたっては英語を主とした外国語の運用能力と、多文化状況や異文化への興味・関心、学ぶことへの意欲も重視します。

募集人員

学部	学科等	入学定員	募集人員						
			一般入試(分離・分割方式)		AO入試Ⅰ		帰国子女入試	外国人留学生入試	合計
			前期日程	後期日程	一般枠	グローバル・国際バカロレア枠			
多文化社会学部	グローバル社会コース 社会動態コース 共生文化コース	100	68	10	8	4	若干人	若干人	90
	オランダ特別コース		7		2	1	若干人	若干人	10
	計	100	75	10	10	5	若干人	若干人	100

批判的・論理的思考力テスト(総合問題)の導入

一般入試(前期日程)の「批判的・論理的思考力テスト(総合問題)」では、高等学校までの教育課程を尊重し、基礎的・基本的知識と教育課程を通して育成される、批判的・論理的思考力を評価しています。
 グローバル化する社会でみなさんが直面する出来事や課題は、たとえ個人的な事項、ローカルな問題であろうとも、どこかでグローバルな要因とつながっています。そして、こうした出来事や課題の解決のためには、「唯一の正解」を見出すことができない場合がほとんどです。
 こうした「唯一の正解」のない問いに答えようとする上で重要となるのは、身につけた知識や技法を活用して、唯一の正解など存在しない出来事や課題に対してできる限り説得力のある解釈や解答を導き出す力です。
 批判的・論理的思考力テストでは、文章、グラフ、地図、表などを読み解き、そこから論を展開していくことになります。
 そのためには

- (1) 国語の授業で身に付ける読解力、思考力、文章力
- (2) 地歴・公民の授業で身に付ける歴史の流れ・因果関係
- (3) 「この地域はこんな地域」という地理的イメージ力
- (4) 現代社会の仕組みや他者に対する倫理
- (5) 数学や理科の学習を通して養われる数理的に物事を判断する力や論理的に推論する力といった力と知識を総動員することが必要となります。

過去の入試問題及び出題例・解答例・採点の観点については下記URLよりPDFをダウンロードできます。
<http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp/exam/data.html>

東京・福岡 学外試験場のご案内(予定) [一般入試(前期日程)]

※オランダ特別コースについては長崎(文教キャンパス)試験場のみの受験となります。

